

1. 設置趣旨

事故分析に基づき、交通事故の防止、事故数減少に資する自動車安全技術の開発支援、普及活動について検討する。

2. 構成員

◆ 民間企業

(株)アイシン、(株)アドヴィックス、(株)デンソー、トヨタ自動車(株)、三菱自動車工業(株)

◆ 行政

愛知県産業振興課、愛知県警交通総務課

◆ アドバイザー

名古屋大学大学院 工学研究科 水野 幸治教授

3. 検討事項

- (1) 交通事故状況の多角的な分析、調査
- (2) 事故分析に基づく、開発支援、普及が必要な自動車安全技術の検討
- (3) 事故分析に基づく、交通安全対策の検討
- (4) その他WGの活動に資すること

愛知県の交通死亡事故の現状（令和3年）

昨年の交通事故死者数の状況

| 順位 | 都道府県 | 死者数 | 増減数 | 増減率 |
|----|------|-------|------|-------|
| 1 | 神奈川 | 142 | 2 | 1.4 |
| 2 | 大阪 | 140 | 16 | 12.9 |
| 3 | 東京 | 133 | -22 | -14.2 |
| 4 | 千葉 | 121 | -7 | -5.5 |
| 5 | 北海道 | 120 | -24 | -16.7 |
| 6 | 埼玉 | 118 | -3 | -2.5 |
| 7 | 愛知 | 117 | -37 | -24.0 |
| 8 | 兵庫 | 114 | 4 | 3.6 |
| 9 | 福岡 | 101 | 10 | 11.0 |
| 10 | 静岡 | 89 | -19 | -17.6 |
| | 全国 | 2,636 | -203 | -7.2 |

○ 昨年の愛知県の交通事故死者数は、
117名となり、**3年連続でワースト1を回避**。

データの出典：愛知県警察本部交通部交通総務課
「交通死亡事故発生状況」より

○ 歩行者が多発

| 区分 | 死者数 | 増減 | 構成率 |
|------|-----|-----|-------|
| 歩行者 | 42 | -18 | 35.9% |
| 自転車 | 18 | -11 | 15.4% |
| 原付 | 7 | 1 | 6.0% |
| 自動二輪 | 16 | -5 | 13.7% |
| 四輪車 | 32 | -4 | 27.4% |
| その他 | 2 | 0 | 1.7% |

○ 年齢層別で見ると高齢者の割合が高い

| 区分 | 死者数 | 増減 | 構成率 |
|-----|-----|-----|-------|
| 子ども | 2 | 0 | 1.7% |
| 若者 | 5 | -7 | 4.3% |
| 一般 | 36 | -24 | 30.8% |
| 高齢者 | 74 | -6 | 63.2% |

愛知県の交通死亡事故の現状（～令和4年7月）

令和4年7月までの交通事故死者数の状況

データの出典：愛知県警察本部交通部交通総務課

「交通事故日報（令和4年7月31日現在 暫定数）」より

| 順位 | 都道府県 | 死者数 | 増減数 | 増減率 |
|----|------|-------|-----|------|
| 1 | 愛知 | 80 | 16 | 25.0 |
| 1 | 大阪 | 80 | -4 | -4.8 |
| 3 | 兵庫 | 72 | 11 | 18 |
| 4 | 東京 | 69 | 1 | 1.5 |
| 5 | 千葉 | 68 | 0 | 0.0 |
| | 全国 | 1,365 | -63 | -4.4 |

- 令和4年7月時点での愛知県の交通事故死者数は、80名となり、全国ワースト1位タイ。昨年7月と比較し大幅に増加している。

- 年齢層別で見ると高齢者の割合が高いが、若者は既に昨年（5人）を超える死者数となっている。

| 区分 | 死者数 | 増減 | 構成率 |
|-----|-----|----|-------|
| 子ども | 1 | 1 | 1.2% |
| 若者 | 15 | 12 | 18.7% |
| 一般 | 25 | 7 | 31.3% |
| 高齢者 | 39 | -4 | 48.8% |

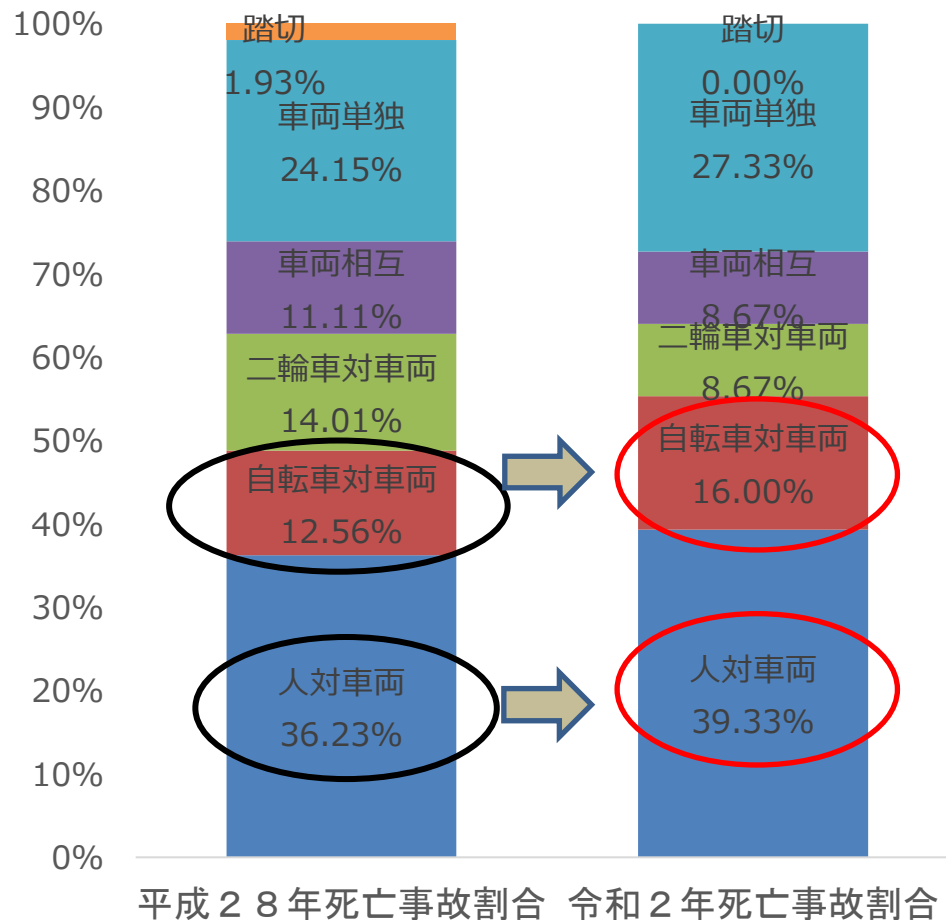
- 歩行者に加えて**自転車が増加傾向**

| 区分 | 死者数 | 増減 | 構成率 |
|------|-----|----|-------|
| 歩行者 | 32 | 9 | 40.0% |
| 自転車 | 11 | 2 | 13.8% |
| 原付 | 7 | 2 | 8.7% |
| 自動二輪 | 9 | 3 | 11.2% |
| 四輪車 | 21 | 2 | 26.3% |
| その他 | 0 | -2 | 0.0% |

これまでの活動内容

これまでの活動内容（平成26、27年度）

- 平成26年度から、死亡事故につながる事故類型を対象に事故原因の分析を実施。
- 平成28年と令和2年を比較しても、自転車対車両、人对車両は変わらず交通事故死者数の割合において大きな比率を占める。



平成27年度
出合頭・自転車事故の分析
(事故カルテを活用)

平成26年度
対歩行者事故の分析
(事故カルテを活用)

平成28年度～
対歩行者・対自転車を対象に、
ドライブレコーダーの映像を活用した
事故分析を実施

これまでの活動内容

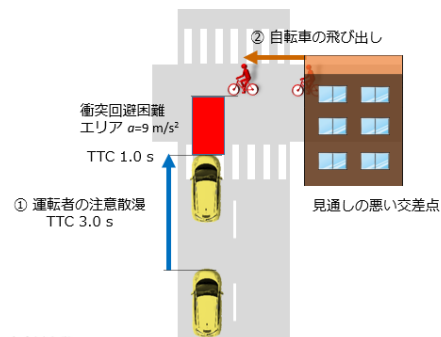
これまでの活動内容（平成28年度～）

- 愛知県タクシー協会、名古屋タクシー協会の協力の下、県内タクシー事業者から収集したドライブレコーダーの事故映像を分析。

【平成28年度】

事故映像とヒヤリハットを比較し、事故発生要因を明確化

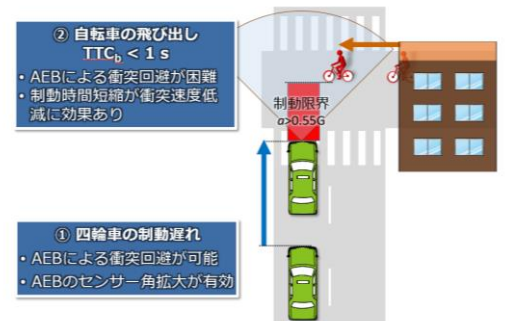
自転車事故の発生要因



【平成29年度】

四輪車対自転車の出合頭事故を再現し、AEB Sの効果検証

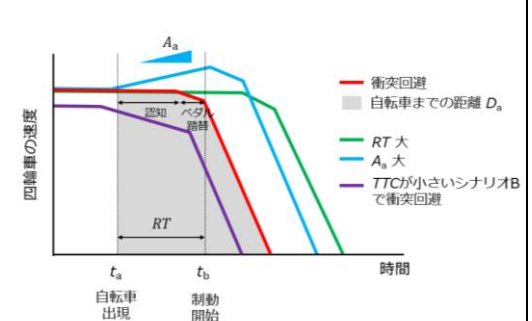
出合い頭事故の自動ブレーキによる回避



【平成30年度～】

事故映像をドライビングシミュレータ上に再現し、被験者試乗による分析

四輪車速度と衝突回避



今年度の活動内容

事故分析WG

取組内容

- ドライブレコーダーの事故映像を分析（継続）
- ドライビングシミュレーターを活用し、挙動や運転傾向から、事故要因を分析（継続）
- 新たに自動ブレーキ搭載車の事故映像を活用し、搭載車と非搭載車の比較検証に着手

今年度のスケジュール

